

令和6年度 第2回登別市地域公共交通活性化協議会 議事録 要旨

開催概要

日 時 令和6年8月19日（月） 15:00～

場 所 登別市役所 2階 議場

出席者 別紙のとおり

議事内容

1 開会

2 会長あいさつ

- ・人手不足や高齢化、2024年問題が重なり、全国的に減便等のダイヤ改正が余儀なくされる状況にある。
- ・本日の議題としては、国のフィーダー補助の対象となっているグリーンスローモビリティおよび市内路線のダイヤ改正が主な議題となっているので、皆さまの立場からご意見をいただきたい。

3 会議の成立報告

- ・本日の協議会委員出席者数は12名
- ・委員の過半数が出席しており、登別市地域公共交通活性化協議会規約第4条第4項の規定に基づき、会議が成立していることを田中会長が報告

4 議事録署名委員の指名

- ・田中会長が千葉委員と片岡委員の2名を議事録署名委員に指名

5 事務局提案

- ・議事の内容には確定したのではなく、今後まだ変わる可能性がある内容が含まれていることから、非公開にしたい旨提案

【審議結果】

- ・異議なし

6 議事

(1) 令和6年度グリーンスローモビリティの運行について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局（登別市観光経済部観光振興G）

- ・別紙資料に基づき内容を説明

要旨 ①令和5年度の有償運行の実績等について

②令和6年度の運行を有償から無償に変更することについて

【委員からの主な質疑等】

■ A 委員

Q 1 : 令和 6 年度の協賛金収入は、もう目標を達成しそうだという事だったが、協賛金とは主にどのような企業が拠出してくださっているのか。やはり温泉街がメインか。

A 1 : 今、協賛して下さっている企業は 20 数社であるが、温泉街の宿泊施設や飲食店がおよそ 6 割となっている。また、市外の企業からも複数口のご支援を頂いている。この協賛に関してはグリーンスローモビリティに限らず、登別温泉にて進めている地域脱炭素活動を応援してくださいという名目となっており、温泉街の外からも多くの企業からご支援いただいている。

Q 2 : 協賛いただいた企業には何らかの謝礼を提供しているのか。

A 2 : グリーンスローモビリティ車内に協賛企業の名前が入ったプレートを掲示している。

【審議結果】

- ・承認

(2) 路線バスのダイヤ改正（路線廃止等）について

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局

- ・別紙資料に基づき内容を説明

要旨 ①市内 3 路線の廃止と、市内 2 路線の経路変更について

②廃止予定のカルルス路線の現状等について

【委員からの主な質疑等】

■ B 委員

Q 1 : バス停「市役所入口」が無くなるということか。

A 1 : 室蘭から白老方面に向かう車線のバス停のみ廃止となる予定である。

Q 1 : 幌別鉄南郵便局の方にもう一つバス停が無かったか。

A 1 : 昔は高速バスのバス停があったが、すでになくなっている。「市役所入口」はドラッグストア、コンビニエンスストアのある交差点の室蘭側である。

Q 1 : では、鉄南ふれあいセンターから「富岸」までは全くバス停が無くなるという事か。

A 1 : 白老方面に向かう車線に関してはご認識のとおりである。そのため、廃止後の最寄りバス停としては、幌別駅の自由通路を渡った先の「幌別駅西口」か、交差点から線路を渡った先の「中央町 1 丁目」という形になる。

Q 1 : 「幌別本町」においてはどれほどの路線が残るのか。

A 1 : 室蘭に向かう路線が 1 便残る。

■ C委員

Q 2 : 「市役所入口」を通るバスがほぼなくなるということだが、それであれば周辺の住民としては「市役所入口」から交差点を渡って白老側の幌別鉄南郵便局前にバス停を設けてもらえるとうりがある。また、「道路事務所前」の周辺にも住民がいるので、そこをどうするかも考えなければならない。

A 2 : 今後、各地域にて住民説明会を実施する予定であり、その中で既存バス廃止後の最寄りのバス停の紹介をしていきたいと考えている。また、幌別鉄南郵便局前にバス停を設けてほしいとのことであるが、周辺に住まわれている方の土地の地先に設置することとなると、なかなか了承を得られない場合もあると聞いており、その他にも道路管理者との調整、警察との調整も必要となる事柄であるため、バス事業者と相談していきたい。

意見 : 事業者の運転手不足などの事情はわかるが、行政として、地域に公共交通が全くないという状況は避けてほしい。昔、鉾山町で路線バスが廃止された時、市が車両を用意して地域住民の足を確保したことがあるが、そういったような対応も考えてほしい。

■ D委員

Q 3 : 登別温泉～登別駅間の路線が結果的にどれくらい増えるのか、わかれば教えていただきたい。従来8便であった路線を、20便にするということで便利になるように見える反面、全体で見ると郊外線など廃止になる路線もあり、それらを総合すると最終的に便数が増となるのか減となるのか。全体像が見えてこない。

A 3 : 今回のダイヤ改正についてはまだ全体が固まっているわけではなく、配布した資料に載っていない部分でも増便、減便が今後出るかもしれない状況であり、全体を通して増便となるのか減便となるのかについては把握できていない状況である。

Q 3 : まだわからない部分もあるとのことであるが、8便で運行していた路線が20便になると表現すると、数字だけが一人歩きしてしまう懸念がある。現時点では社内で共有することなく、委員である私の中でとどめておいた方が良いか。

A 3 : ご懸念のとおり数字が一人歩きしてしまう可能性があるため、現時点では共有は控えていただきたい。また、駅での滞留が大変な状況であるということはバス事業者からも聞いており、ダイヤ改正の際も考慮した上で対応していくとのことであった。

■ E委員

Q 4 : ダイヤ改正についての議事であるが、未確定な部分もあるという段階で、この協議会としてなにについて決めたり意見を出したりすれば良いのか。

A 4 : 廃止などについて協議会としての意見をいただいた上で、最終的には市の方で判断させて頂こうと考えている。

Q 4 : ということであれば、この件に関して協議会には決定権がないという捉え方で良いか。私たちも責任のある立場となってしまうので、例えば私たちが反対の意見を提出するとバス事業者が改正できなくなってしまうのか、どういう構図となっているか確認したい。

A 4 : いただいた意見を地域の声としてバス事業者に伝えたいと考えている。

■ C委員

意見：改正を行う理由は理解できるが、地域住民に対して細かく説明会を実施し、理解を得ることが大切だと思う。

■ A委員

Q5：議事を見た限りでは廃止後の代替案が示されていないが、事務局の方でなにか考えているものがあるか。

A5：現段階では確定したものはない。

Q5：先ほど、協議会で出た意見をバス事業者に伝えるという話があったが、代替案の示されていない状況では意見を出しづらい部分があると思う。鶏が先か卵が先かという話でもあるが、何らかの代替案があるのか、それに対して市として予算措置を考えているのかは必要な部分である。また、資料の作成は大変だと思うが、住民説明会の場では維持される路線も示した上で、だいたいこの程度サービスレベルが下がりますよということをお見せした方が良いのかなと思う。

■ 田中会長から門間委員（国土交通省北海道運輸局室蘭運輸支局首席運輸企画専門官）へ確認

田中会長：自治体によって違いがあるかもしれないが、ダイヤ改正や路線の廃止について、協議会が可否を示すべきなのか、自治体が最終的な判断をするべきなのか、事例はあるか。

門間委員：先ほど事務局が示した通り、協議会にて聴取した意見を踏まえて最終的には市が判断する形で問題ないと思う。協議会の意見を絶対とする形、尊重とする形のどちらもあるが、どちらにするかは各自治体で決めることであり、国が強制するものではない。

■ C委員

意見：昔、高速バスのバス停が変更となった際、なぜ周知しないのかという意見を耳にした。まして、今日は8月19日、ダイヤ改正は10月1日予定であり、早く周知しなければハレーションが起こる可能性がある。高速バスの時の二の舞とならないようにしてもらいたい。

■ 田中会長

田中会長：生活交通については市民生活部、生徒については教育部、観光客については観光経済部がそれぞれ検討しているところであるが、明確な方向性はまだ示せる段階ではないことから、今回の協議会では皆さんの意見を聞いた上で最終的には市が判断することとしたい。それを伝えることで、現状の中でバス事業者ができるベスト、もしくはベターな形でダイヤ改正を進めてもらえるようにする、そのような認識でいくということにしたい。

【審議結果】

- ・承認

7 報告

(1) 観光部門の共創事業の取り組みについて

【説明者】登別市地域公共交通活性化協議会事務局（登別市観光経済部観光振興G）

・別紙資料に基づき内容を説明（主にインバウンド対策）

- 要旨 ①輸送力強化実証実験について
②事前決済システム等の高度化について
③手荷物預かり実証実験について

【委員からの主な質疑等】

■D委員

意見：コロナ禍後、インバウンドが増加しており、バスに乗るまでお客様にご足労をお掛けする事態になっている。また、登別駅が2025年度に新駅舎となること、登別市や北海道の方で、駅前広場や駅前通りの活性化が図られる予定があることから、非常に関連深い部分となっている。皆さんのご意見をいただきながら、登別温泉の玄関口である登別駅を中心として活性化を図られればと思うので、今後ともご協力をお願いしたい。

■A委員

Q1：Ma a S共創事業の補助金の申請時期はいつか。

A1：申請時期は本年4月であった。

Q1：4月の時点で事業案が固まっていたのであれば、もう少し早く情報提供をすることができたのではないか。

A1：当初の事業案としては既存の路線を残したまま、別路線として設ける想定で協議してきたが、同じ経路で別料金とすることは決済システム上難しいという判断になり、ここ1、2ヵ月で現在の案にまとまったところであるため、今回の協議会で情報提供する運びとなった。

【審議結果】

・承認

8 閉会